

東京湾海況情報 28-3

東京湾水質調査結果（平成28年6月）

（平成28年6月20日発行）

千葉県水産総合研究センター
 東京湾漁業研究所
 〒293-0042 富津市小久保3091
 TEL 0439-65-3071
 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp
 千葉県農林水産技術会議

資料 水質調査 6/1：内湾(ふさなみ)、内房海域(ふさみ丸)
 関東・東海海況速報(6/1)、東京湾口海況図(6/1)
 モニタリングポスト(6/1：国土交通省関東地方整備局、海上保安庁)
 神奈川県水産技術センター(6/1)、東京都環境局(6/1)

【 水温・塩分の状況 】

湾内の表層水温(図1)は全域で20～21℃台で、湾奥では平年よりやや低めになっています。塩分は羽田沖でやや低いものの、おおむね30～34PSU台です。ほぼ全域で平年より高く、内湾北部ではかなり高くなっています。

縦断面の水温・塩分の鉛直分布(図3)では、水温は表層と底層の温度差が例年より小さくなっています。塩分は34PSU前後の水塊が内湾中央部の水深25m付近までみられました。

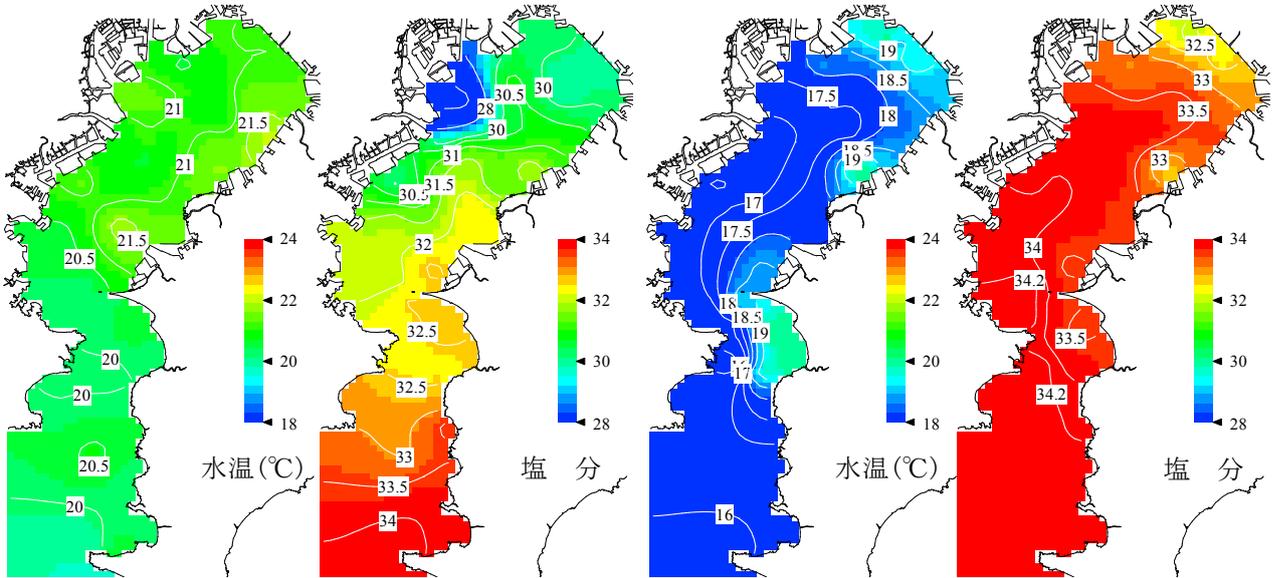


図1 水温・塩分分布（表層）

図2 水温・塩分分布（底層）

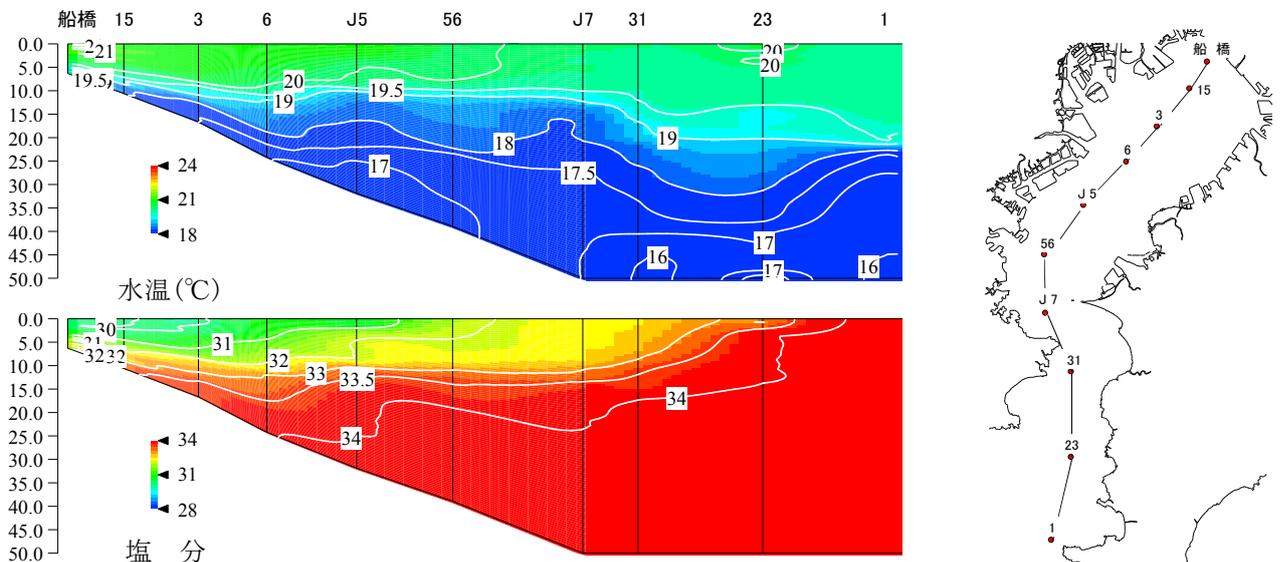


図3 縦断面の水温・塩分の鉛直分布(上：水温、下：塩分、右：調査ライン)

【 赤潮の状況 】

赤潮は発生していませんが、船橋から千葉灯標にかけての沿岸ではpHがやや高く、水色もやや褐色を帯びているところがありました。

プランクトンは渦鞭毛藻のディノフィシス (*Dinophysis acuminata*) やケラチウム (*Ceratium fusus*)、ノクチルカ (*Noctiluca scintillans*) がやや多くみられていました。

一方、保田から富浦にかけての周辺海域でもディノフィシス (*D. acuminata*) やノクチルカ (*Noctiluca scintillans*) がみられていました。

これらはいずれも魚貝類に有害な種類ではありませんが、ディノフィシス (*D. acuminata*) は他の海域で下痢性貝毒の原因種とされており、今後の動向に注意が必要です。

※ 千葉県の赤潮の目安は次のとおりです。	
色	: オリーブ～褐色
酸素飽和度	: 150%以上
透明度	: 1.5m以下
pH	: 8.5以上
クロロフィルa	: 50 $\mu\text{g/L}$ 以上

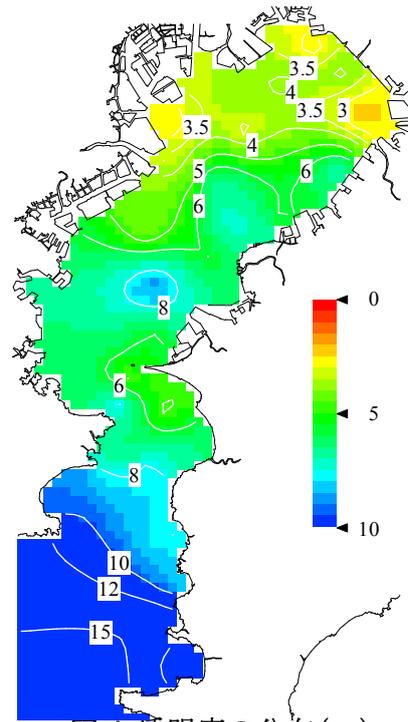


図4 透明度の分布 (m)

【 貧酸素水塊の状況 】

内湾底層部の溶存酸素量(図5, 6)は中央部西側から北部海域で低下し、北西部では0.5ml/L以下の強い貧酸素水塊がみられました。

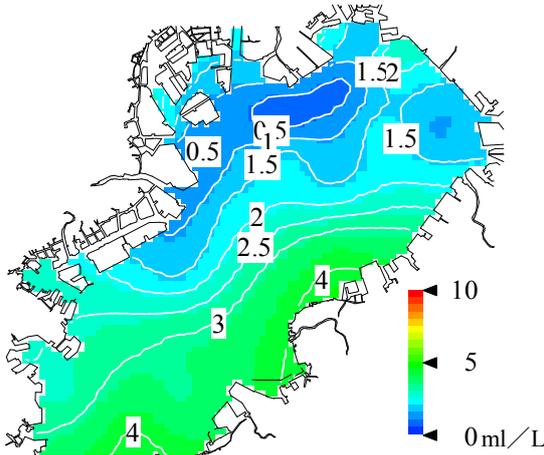


図5 底層部の溶存酸素量の分布(内湾)

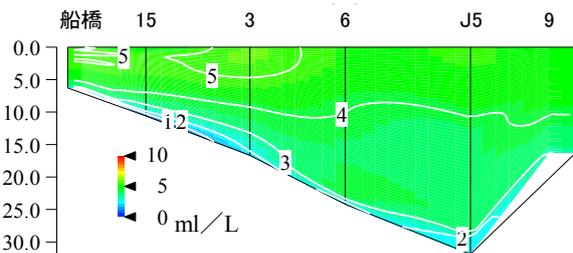


図6 縦断面の溶存酸素量の分布(内湾)

※ 千葉県水産総合センターでは、溶存酸素量2.5ml/L (酸素飽和度50%) 以下を貧酸素水塊としています。

【 栄養塩の状況 】

湾内の表層栄養塩(図7)は溶存無機態窒素(DIN)、リン酸態リン($\text{PO}_4\text{-P}$)ともほぼ全域で平年並みから多めです。

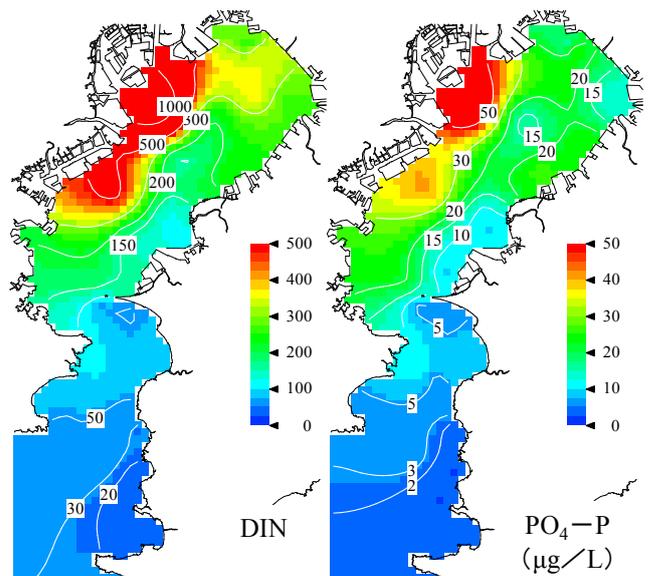


図7 栄養塩濃度の分布 (表層)

【黒潮の状況】

黒潮は依然C型基調で推移し、その流軸は1日現在青ヶ島付近を通過した後、141° Eを北上しながら、房総半島南東岸を北東方向へ流れています(図8)。

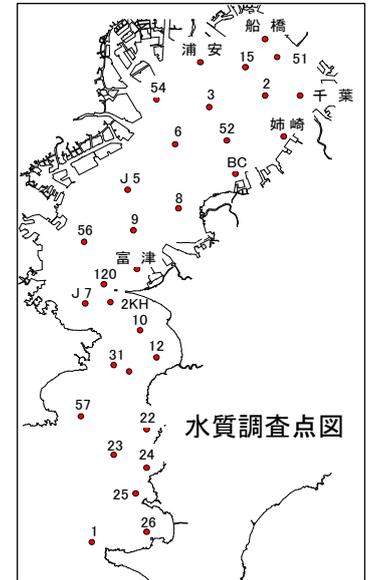
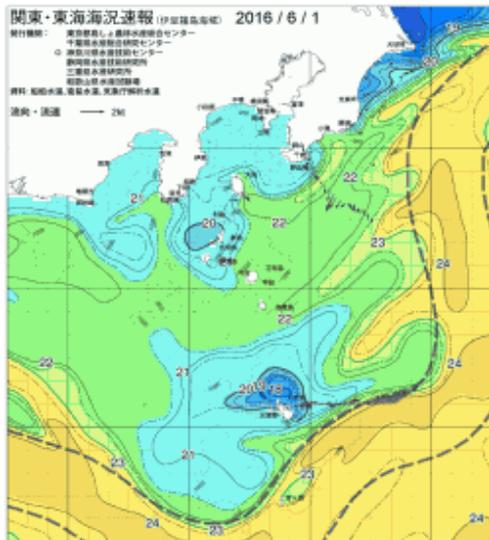


図8 黒潮の動き (平成28年 6月 1日)

表1 主な調査点の水質調査結果 (表層, 溶存酸素量のみ底層)
(): 最近10年間の平均値 (2006~2015年)

調査点	水温 (°C)	塩分	透明度 (m)	pH	溶存酸素量 (ml/L)	アンモニア態窒素 (µg/L)	溶存無機態窒素 (µg/L)	リン酸態リン (µg/L)	クロロフィルa (µg/L)
内湾	船橋	21.1 (22.0)	30.10 (27.46)	2.8 (1.7)	8.3 (8.7)	1.7 (2.6)	61 (52)	255 (222)	16 (16)
	st.15	20.8 (22.0)	30.07 (27.06)	4.1 (1.8)	8.4 (8.8)	0.5 (1.8)	88 (77)	353 (238)	24 (14)
	st.3	20.8 (21.4)	29.89 (26.92)	3.5 (2.0)	8.4 (8.7)	2.2 (1.5)	87 (77)	344 (236)	20 (19)
	st.6	20.7 (21.2)	30.71 (28.49)	6.5 (2.5)	8.4 (8.7)	2.4 (2.7)	114 (44)	276 (128)	24 (7)
	st.9	21.6 (21.0)	31.60 (30.11)	9.0 (2.9)	8.3 (8.5)	4.3 (3.6)	83 (20)	181 (73)	15 (4)
	st.BC (盤洲Cブイ)	21.5 (20.1)	31.72 (30.60)	6.0 (3.6)	8.2 (8.3)	5.2 (3.7)	104 (34)	223 (127)	26 (4)
	st.8 (盤洲A南)	21.0 (21.4)	32.27 (29.64)	6.0 (2.7)	8.2 (8.5)	4.5 (3.3)	36 (20)	113 (107)	9 (6)
	富津	21.0 (21.1)	32.56 (30.65)	6.0 (2.7)	8.1 (8.5)	4.5 (3.1)	76 (15)	147 (59)	8 (4)
内房海域	st.2KH (第2海ほ下)	20.1 (20.2)	32.53 (31.40)	5.0 (3.7)	8.2 (8.4)		21 (15)	52 (69)	4 (4)
	st.31	20.0 (20.1)	32.33 (31.57)	7.0 (4.3)	8.2 (8.4)		44 (21)	85 (64)	10 (5)
	st.23	20.6 (20.3)	33.01 (32.72)	10.0 (7.2)	8.2 (8.4)		22 (20)	45 (48)	3 (3)
	st.1	19.7 (20.5)	34.23 (33.52)	16.0 (12.0)	8.2 (8.3)		9 (10)	22 (17)	1 (2)
	st.10 (下洲沖)	20.3 (20.0)	32.63 (31.42)	5.0 (4.3)	8.2 (8.4)		30 (12)	52 (49)	5 (3)
	st.12 (湊沖)	20.1 (20.4)	32.41 (31.38)	7.0 (4.1)	8.2 (8.4)		40 (15)	72 (51)	7 (2)
	st.22 (保田沖)	20.3 (20.3)	33.59 (33.16)	8.0 (8.5)	8.2 (8.3)		13 (14)	26 (25)	1 (1)
	st.24 (富山沖)	20.1 (20.4)	33.55 (33.31)	9.0 (8.6)	8.2 (8.3)		8 (10)	13 (13)	ND (1)
	st.26 (館山湾内)	20.2 (20.6)	33.86 (33.57)	11.0 (9.5)	8.2 (8.3)		5 (6)	8 (9)	ND (1)

注) 透明度、pH、クロロフィルaの欄の橙色は赤潮の基準に、溶存酸素量の欄の青色は貧酸素水の基準に達していることを示しています。